

教師が協働的に道徳科に取り組むための カリキュラム・マネジメントについて

—— ユニットを導入した年間指導計画の作成を通して ——

長期研修員 内田 淳

《研究の概要》

本研究は、複数単位時間の題材構想（ユニット）を導入した年間指導計画の作成を通して、教師が協働的に道徳科に取り組むことができるカリキュラム・マネジメントについて提案するものである。学校の目指す生徒像についての共通認識を基に、それぞれの教師が役割を果たして協働的に取り組めるよう、道徳科の基本方針を盛り込んだユニットを年間指導計画に導入する。そして、ユニットの授業の前に学年の教師で話し合うことで、道徳科の基本方針を基にした、授業での手立て、評価についての共通認識をもって授業を行うことができる。このようなカリキュラム・マネジメントの方法が、教師が協働的に道徳科に取り組むことに対して有効であることを明らかにした。

キーワード 【道徳科 協働 カリキュラム・マネジメント ユニット 共通認識】

群馬県総合教育センター

分類記号：G10-01 令和2年度 273集

I 主題設定の理由

平成31年度から全面実施される道徳科の学習指導要領では、道徳科の指導は、「校長の方針の下に学校の全教師が協力しながら取組を進めていくこと」が明記されており、教師が協働的に道徳科に取り組むことが求められている。また、生徒の実態や、家庭、地域社会との連携を図り、計画的に指導を行えるようにすること、複数時間の関連を図った指導を取り入れながら、3年間を見通して発展的に指導することなどのカリキュラム・マネジメントに関することも挙げられている。群馬県教育委員会の「ふかめよう！道徳科」においても、他教科との関連、全体とのつながりを考えて、年間指導計画の作成に取り組むことが求められている。

これまでの学校では、学級担任が道徳科の指導を行うことが多いため、教師間で話し合う機会も少ない。そのため、学校の目指す生徒像や、道徳科の基本方針について共通認識をもって取り組むことが難しく、教材研究や指導について難しさを感じている教師も見られる。また、年間指導計画や教科書は、1単位時間毎に内容項目が異なり、単発的に扱われることが多いため、複数単位時間で、内容項目を関連的、発展的に指導することに難しさがある。そのため、生活における複雑な道徳的な課題に対して、道徳科の授業の学びを実際に生かすことが難しい。

そこで、内容項目を関連的、発展的に学習できる題材構想（ユニット）を導入した年間指導計画を作成し、教師が協働的に道徳科に取り組むためのカリキュラム・マネジメントを行うことが必要であると考えた。

年間指導計画の作成では、学校教育目標や道徳教育全体計画を基にユニットを作成し、関連的に学習するための内容項目の組合せや、発展的な学習のための系統的な配列、他教科との関連を考慮することで、共通認識の土台となる道徳科の基本方針を具体的に盛り込むことができる。

そして、ユニットを貫く共通の道徳的な課題（ユニットテーマ）は、指導する学年の教師が話し合うことで作成する。学年の教師は、道徳科の基本方針を基に、ユニットで目指す生徒像を実態に合わせて具体的に授業をイメージし、指導の手立て、評価について共通認識をもって指導することができる。

このようなカリキュラム・マネジメントを行うことにより、学校の全ての教師が学校の目指す生徒像を基にした共通認識をもつことができ、それぞれの教師が、それぞれの役割を果たしていくことで協働的な取組にしていくことができると考える。

本研究は、内容項目を関連的、発展的に学習できるユニットを導入した年間指導計画の作成を通して、教師が協働的に道徳科に取り組むためのカリキュラム・マネジメントについて提案しようとするものである。

II 研究のねらい

教師が協働的に道徳科に取り組むために、ユニットを導入した年間指導計画の作成を通じたカリキュラム・マネジメントの有効性を明らかにする。

III 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「教師が協働的に道徳科に取り組む」とは

学校の目指す生徒像についての共通認識を基にして、それぞれの立場の教師が、それぞれの役割を果たして道徳科に取り組むことである。学校の目指す生徒像を実現できるように、いつ、どんな事を指導するのかを具体化していくことで、それぞれの教師が生徒の実態に応じた指導を行うことができ、学校全体での取り組みにしていくことができる。

(2) 本研究における「カリキュラム・マネジメント」とは

ユニットを導入した年間指導計画を作成し、教師が協働的に道徳科に取り組むことで、学校教育目標の実現に向けて、組織的にカリキュラム・マネジメントを行うことである。

(3) 「ユニット」「ユニットテーマ」とは

「ユニット」とは、異なる内容項目を関連させて作成する複数単位時間の題材構想のことである。それぞれのユニットで、ユニットを貫く道徳的な課題としての「ユニットテーマ」を設定する(図1)。ユニットを作成するときは、関連的に学習できるようにするための内容項目の組み合わせや、発展的な学習のための系統的な配列、他教科との関連を考慮していく。ユニットの最後には、ユニットテーマについて考えるまとめの授業を行う。ユニットで学んだ内容項目を使って関連的な学習をさせることができる。

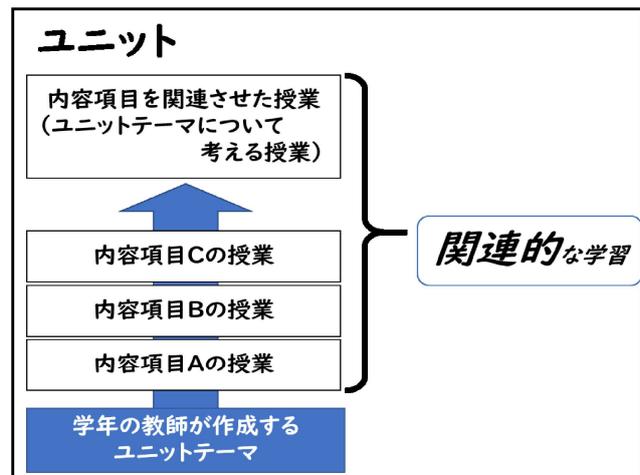


図1 ユニット

また、発展的な学習ができるように、学年ごとの年間指導計画に系統的な配列をしたり、次のユニットに向けての生徒の課題を取り入れた指導をしたりする。

2 研究の概要

P D C A サイクルで道徳科のカリキュラム・マネジメントを行うために、以下の流れで研究を進めた。

(1) ユニットを導入した年間指導計画の作成

4月に学校教育目標、道徳教育全体計画を基に、管理職の指導の下、道徳教育推進教師と学年主任がユニットを作成する。特別活動や総合的な学習の時間などの他教科との関連を図りながら、学年の実態に応じて発展的に学習できるようにユニットを配列し、年間指導計画を作成する。次に教科書の教材を見て関連できそうなユニットに振り分けていく。この時、より関連的、発展的な学習ができるよう、異なる内容項目を組み合わせられるようにする。また、重点内容項目についても、年間を通じて学べるよう振り分け、年間指導計画にも明記する。このような方法によって作成された年間指導計画は、道徳科の基本方針を反映したものとなる。

道徳教育推進教師が、年度当初に、ユニットを導入した年間指導計画を以下の観点を基に作成する。

- ア 学校教育目標や道徳教育全体計画からユニットで扱う内容を選び出す。
- イ 他教科との関連を考慮して、ユニットの実施時期を決め、配列する。
- ウ 発展的に学習できるように3年間を見通して、ユニット名、ユニットの目標を作成する。
- エ 教科書の教材をユニットに振り分ける。

(2) ユニットテーマについての話し合い

ユニットの実践前に、学年主任を中心とした学年の教師が、道徳科の基本方針を基に、ユニットテーマを話し合って作成する。学年主任を中心に、学年の教師が、生徒に考えさせるユニットテーマについて話し合うことで、具体的なユニットで目指す生徒像をつくる必要性が出てくる。ユニットで目指す生徒像は、ユニットでの最終的な目標であるため、目標から遡って授業構想を行うことで具体的な指導の手立てや評価を考えることができる。

まず、ユニットで目指す生徒像を、具体的に見取る方法を話し合う。どのような記述や発言があればよいのかを具体的に話し合うことで、評価についての共通認識をもてるようになる。そこから、予想される生徒の発言や記述を引き出すための、指導の手立てが考えられるようになる。最終的な

授業での手立ては授業者が選択していくことになるが、学年全体でユニットで目指す生徒像や評価方法の共通認識をもつことができているので、ユニットテーマに向けた協働的な取組にすることができる。

このような指導の手立てや評価を含む教材研究は、これまでは学級担任が授業ごとに行っていたが、学年の複数の教師で行えるようになるので、質的に向上させることができるようになると思う。

また、「ユニットテーマについての話し合い」を設定することで、長期的な目標である学校教育目標と、短期的な目標である授業での目指す生徒像をつなげる中間的な目標を考えることができるとも言える。すべての学年で、長期的な目標である学校教育目標に向けた取組ができるようになり、それぞれの学年での指導を、協働的な取組にしていくことができる。

学年の教師が、ユニット実施前に、以下の観点を基にユニットテーマを作成する。

ア ユニットの目標を確認する。

イ 他教科との関連を確認する。

ウ 生徒の実態を話合う。

エ 学年の教師の想いを話合う。

オ 保護者の願いを確認する。

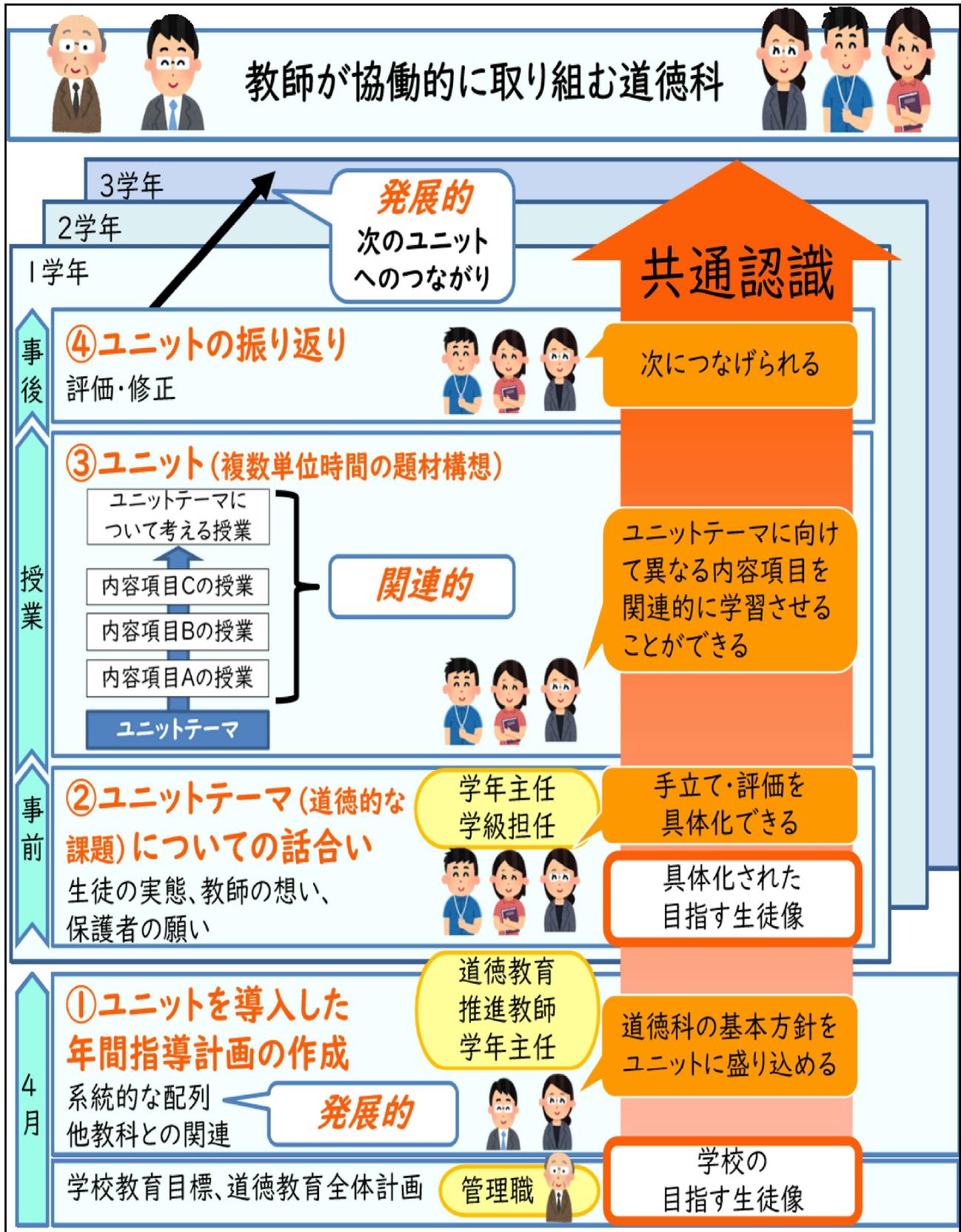
カ ユニットで目指す生徒像について具体的なイメージをもつ。

(3) ユニットの授業

ユニットの授業では、全ての学年の教師が、共通認識を基に異なる内容項目を関連させて指導できる。学年で共通認識をもっているので、学級担任でない教師が補助発問を行ったり、授業の支援を行ったりすることで、協働的に指導していくことができる。生徒にとっては、単発の内容項目とは違う、生活の中での複雑な道徳的な課題に対応できるような力を、関連的、発展的な学習で身に付けることができるようになる。

(4) ユニットの振り返り

授業での生徒の記述や発言を確認しながら、共通認識を基に学年の教師で生徒の評価を行う。また、次のユニットや来年度のユニットで、どのような指導をしていけばよいのかを確認することで、発展的な学習につなげることができる。さらに、ユニットについて振り返りを行い、学年主任がユニットの改善点を道徳推進教師に伝える。道徳推進教師が年間指導計画を修正することで年間を通して改善することができる。



IV 実践の計画と方法

1 実践の概要

表1は学年での協働的な取組を中心に行った実践、表2は他学年との協働的な取組を中心に行った実践である(表1、表2)。

表1 関連的な学習を中心に行った実践

| | |
|----------------|---|
| 実践1 (1学年) 全3時間 | |
| ユニット | 「他人を思いやる気持ち」 |
| ユニットテーマ | 「なぜ助け合いが必要なのだろうか」 |
| 目標 | 相手の気持ちを考え、公平に行動しようとする心情を育てる |
| 実践2 (1学年) 全4時間 | |
| ユニット | 「地域行事に進んで参加」 |
| ユニットテーマ | 「しあわせを実感できるまちにするために」 |
| 目標 | 地域とのつながりを知り、地域への感謝の気持ちをもちながら、地域社会のために貢献していこうとする心情を育てる |
| 実践3 (1学年) 全4時間 | |
| ユニット | 「自他を尊重する」 |
| ユニットテーマ | 「共に生きるとは」 |
| 目標 | お互いの長所を認め合い、信頼し合える関係をつくろうとする心情を考える |

表2 発展的な学習を中心に行った実践

| | |
|----------------|---|
| 実践4 (2学年) 全3時間 | |
| ユニット | 「充実した学校生活を作る」 |
| ユニットテーマ | 「自分達でつくる学校」 |
| 目標 | 一人一人が学校の中心的役割を意識して生活することで、2年生全体でよりよい中学校を作ろうとする判断力を高める |
| 実践5 (3学年) 全4時間 | |
| ユニット | 「学校に貢献する」 |
| ユニットテーマ | 「残り半年、中学校のために何ができるか」 |
| 目標 | 学校行事を盛り上げ、自分達の学校をよりよい学校とするために、日常生活でできることに全力を尽くそうとする実践意欲を高める |

2 検証計画

| 検証の観点 | 検証の方法 |
|---|-------------------------------------|
| ユニットを導入した年間指導計画の作成を通したカリキュラム・マネジメントを行ったことは、教師が協働的に道徳科に取り組むために有効であったか。 | カリキュラム・マネジメントの各過程における、教師からの聞き取り及び記録 |

3 実践

ここでは、実践2のユニット「地域行事に進んで参加」を中心的に取り上げる。

(1) ユニットを導入した年間指導計画の作成

道徳教育推進教師が、ユニットを導入した年間指導計画を、以下の観点を基に作成した。

ア 道徳教育全体計画の道徳の目標、重点内容項目、保護者・地域の願いから、学校教育目標が実現できるよう、「強い心と体」、「自他の尊重」、「地域社会に貢献」などを選び、ユニットを作成した。

イ 他教科との関連を図れるよう実践する時期を考えてユニットを配列する。

実践2のユニットについては、総合的な学習の時間の「地域学習」と関連をもたせることにし、総合的な学習の時間の前にユニットを配列した（図2）。



図2 ユニットの年間指導計画に配列する例

ウ それぞれの時期での他教科との関連を考え、配列したキーワードからユニット名、ユニットの目標を作成する。その際、学年に応じて発展的に学習できるように、1学年は「心情を考える」、2学年は「判断力を高める」、3学年は「実践意欲を高める」ことを考慮する。

実践2のユニットでは、地域とのつながりを考えることで、地域と関わる心情を育てることを目標として「地域社会に進んで参加」というユニット名を作成した。

エ 教科書の教材を読み、22の内容項目をユニットに振り分ける。ユニットで関連的に学習できるように、A～Dの四つの視点をなるべく組み合わせる。

実践2では、地域に支えられていること、地域社会に進んで参加すること、周りの人たちに感謝することという視点から、地域とのつながりを考えられるよう教材を組み合わせた（表3）。実践を行った第1学年では、このような方法で八つのユニットを作成した。その結果、年間の時数は、22項目の内容項目を指導する時間が22時間、ユニットごとに1時間設定するユニットテーマについて考える時間が8時間、重点内容項目に割り当てる時間が5時間、合計35時間となった。

表3 実践2のユニットの計画例

| | |
|----------------|---|
| ユニット | 地域社会に進んで参加 |
| ねらい | 地域とのつながりを知り、地域への感謝の気持ちをもちながら、地域社会のために貢献していこうとする心情を育てる |
| ユニットにおける目指す生徒像 | 自分は地域の人のお世話になっていることが多いけど、自分達のためにしてくれていることに対して自分から感謝の気持ちを伝えながら、地域のための行事などに参加しようとする生徒 |

| | |
|-----|--|
| 第1時 | ○主題名「郷土のために寄与する」C－(16) 郷土の伝統と文化、郷土を愛する態度 ○教材名「久米民之助の夢」(出典：ぐんまの道徳) ○ねらい 民之助の地域を思う気持ちを知り、地域の活動に参加しようとする心情を育てる ○振り返り 地域のためにどんなことをしていきたいか |
| 第2時 | ○主題名「つながりが生み出す力」C－(12) 社会参画、公共の精神 ○教材名「21 富士山から変えていく」(出典：日本文教出版) ○ねらい よりよい集団にするために、全体のことを考えて行動しようとする心情を育てる ○振り返り クラスや学校などの集団のためにどんなことをしていきたいか |
| 第3時 | ○主題名「言葉のもつ不思議な力」B－(6) 思いやり、感謝 ○教材名「3 人のフリみて」(出典：日本文教出版) ○ねらい 感謝するとはどういうことか考え、感謝を伝えようとする心情を育てる ○振り返り 身の回りの人たちに、どうやって感謝の気持ちを伝えていこうと思うか |
| 第4時 | ○ユニットテーマについてのまとめ ○ねらい これまでの学習を基に、「しあわせを実感できるまちにするために」について話し合い、自分の考えをまとめる |

(2) ユニットテーマについての話し合い

学年の道徳担当教師がユニットテーマ「しあわせを実感できるまちににするために」を提案し、以下の観点を基に検討した(図3)。

- ア ユニットの目標「地域とのつながりを知り、地域への感謝の気持ちをもちながら、地域社会のために貢献していこうとする心情を育てる」を確認する。
- イ 総合的な学習の時間の単元名「地域を知る」との関連の仕方を確認する。

ウ 生徒の実態として、「地区の子供会や祭り、公園

の花見などで地域行事との関わりはあるが、それらを通して地域の人達とのつながりを意識している生徒は少ないため、地域への感謝の気持ちを深く考えていない」

エ 学年の教師の想いとして、「道徳科の授業で、生徒と地域とのつながり方について考えを深めることにより、総合的な学習の時間でも、地域の歴史や特色について主体的に学習に取り組めるとよい」

オ 保護者の願いとして、「祭りや子供会に遊びに行くだけでなく、中学生としてあいさつや礼儀など、地域の大人との関わり方も考えてほしい」

カ ユニットで目指す生徒像「自分は地域の人のお世話になっていることが多いけど、自分達のためにしてくれていることに対して自分から感謝の気持ちを伝えながら、地域のための行事などに参加しようとする生徒」

これらの話し合いの中で、「ウ」の生徒の実態と、「イ」と「エ」の総合的な学習の時間との関連から、「カ」のように地域との関わりを考える指導をしていくことが決まった。どのような関わり方をすれば、自分も、地域の人たちもよい気持ちになれるのかを考えさせたいという話し合いの結果、「しあわせを実感できるまちににするために」というユニットテーマに決定した。

次に、ユニットで目指す生徒像を基に、評価についても話し合い、ユニットを通した生徒の考えの変容が見取れるよう、1枚ポートフォリオを使うことにした。

さらに、1枚ポートフォリオの記述を基にした評価について話し合った。生徒が異なる内容項目を関連的に深く考えたかを見取れるよう、「テーマについて自分はどうしていきたいか」や「理由」の記述から分析する方法を考えた。

その結果、事前に行った自分の考えと同じ内容を事後に書いたとしても、そこに経験や新しい根



図3 学年教師の話し合いの様子

拠を書くことができているならば、学習した内容項目によって考えが「強化」されたと判断できることにした。また、事前の考えから考えが変わったり、逆接などを使って対立する考えを使ってまとめたりした場合は、学習した内容項目による「変化」と判断することとした。さらに、事前の考えに、授業内容や友だちの意見から考えを増やすことができているならば、学習した内容項目の「追加」と判断することとした。

これらの、「強化」「変化」「追加」などの変容が見られる生徒については、内容項目を関連的に捉え、考えを深めていると捉えることとした。

以上の話し合いを基に、予想される生徒の姿を1枚ポートフォリオの形でまとめた(図4)。図4は、逆接を使って「自分が楽しむ」から「地域の人達と関わりをもって一緒に楽しむ」への変化についての例である。このような分析を学年全体で話し合ったことで、評価についても共通認識をもてるようになった。

| | |
|--|--------------|
| ○テーマについて自分はどうしていきたいか。(授業前の考え) | |
| 地域の人と協力して助け合う | |
| ①授業で学んだことを使ってテーマを解決する方法を考えよう | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事を通して地域の人と一緒に地域を明るくする。 ・自分勝手な行動ではなく地域全体のことを考える。 ・しあわせを感じられるようにお互いに感謝し合う。 | 他の人の考えをメモしよう |
| ②テーマについて自分はどうしていきたいか。 | |
| 地域の行事で自分が楽しむことだけ考えてたけど、これからは、自分達のために活動している地域の人に対して普段からあいさつや、お礼の気持ちを伝えて、地域の人達と一緒に楽しめるように行事を盛り上げていきたい。 | |
| ③授業をする前と比べて自分の考えはどうなりましたか?当てはまるもの全てに○をつけよう。【 はっきりした 変わった 広がった 】 また、それらを選んだ理由を下に書こう。(授業で学んだこと、自分の経験、友達や家族の言葉、など) | |
| 理由 | |
| 理由は、近所の人に感謝されたときにやってよかったなって思ったことがあったので、地域全体で感謝し合えるようになればしあわせを感じられると思ったから。 | |
| 家庭より | |
| この道徳で学んだことを生かして、近所の人にあいさつしたり、地域の清掃活動に参加したりして欲しいです。 | |

図4 目指す生徒像を想定した1枚ポートフォリオ

具体的な評価の方法が決まったところで、指導の手立てについても話し合い、学年全体で指導できるよう、学年の教師がローテーションで授業を行うことにした。また、生徒が主体的に話し合いができるよう、座席を元にした班活動ではなく自由に動ける環境にした。さらに、生徒が考えを自由に記述できるような円形のホワイトボードを使って、内容項目を関連的に考えているかを見取れるようにした。こうした話し合いを通して、各授業での指導の手立ての共通認識ができ、学年全体で授業に取り組むことができるようにした。

(3) ユニットの授業

① 第1時～第3時

授業では、それぞれの内容項目についての指導を行った。授業の振り返りを1枚ポートフォリオに記述することで、ユニット全体の学習を関連させて考えやすくする。授業後の「先生から一言」の欄には、それぞれの授業者が、生徒の振り返りの内容をユニットテーマに向けて考えられるよう記述を行っている。例えば、2時間目では、「公共の精神」という内容項目に対して、生徒は振り返りで「周りのことも考えて行動したい」と書いている。そこで、この考えをユニットテーマに向

けられるよう、「住みやすい町にするためにはこの考え方が大事ですね。」と記述することができている。また、学年の教師がローテーションで指導しているため、生徒の意識にも、学年全体で道徳を行っている認識がある。その結果、学級担任でない教師が生徒の支援に入っても、自然に活動することができていた。授業の中でも協働的に指導できる環境が作られている（図5）。

| 道徳 振り返りシート | | | | |
|------------|---------|-----------------------|--|---------------------------------------|
| 回 | 月日 | 資料名 | 授業の振り返り（学んだこと、今後生かしたいこと、友達の意見など使って） | 先生から一言 |
| | 内容 | 担当の先生 | | |
| 1 | 9月 9日 | 25震災を乗り越えて 久米民之助の夢 | 毎日いろんな人達に支えられ学校に行き来りできる人だと思いました。今後自分達も人々を支えていたり地域の行事に参加し来りしていきたいです。 | なぜ参加するのかわからない。どう参加するのかわからない。とても大事だと思う |
| | 郷土を愛する心 | ●● 先生 | | |
| 2 | 9月16日 | 21富士山から変えていく | 誰かがやっているからとできると思うのでこれから自分優先ではなくて、周りのことを考えて行動していきたいです。 | みんなが住みやすい町にするためにはこの考え方が大切だと思う！ |
| | 公共の精神 | ●● 先生 | | |
| 3 | 9月23日 | 3人のフリみて | 「ありがとう」という簡単な一言だけでそれを言われただけで良い気持ちにはなれるしこれからは頑張ろうと思える。これからはちょっとしたことでも「ありがとう」と声をかけて自分も周りの人を笑顔にしたい。 | 自分が言った一言で人が元気になる。そして自分も元気になるよ！ |
| | 思いやり感謝 | ●● 先生 | | |

図5 実践2の各授業での教師のコメント

② 第4時（ユニットテーマのまとめ）

導入では、第1時～第3時までの学習で学んだことを振り返り、本時の学習のめあて「ユニットテーマについて話し合い、自分なりの考えをまとめよう」を立てた。

展開では、ユニットテーマ「しあわせを実感できるまちににするために」について、今まで学んだことを生かして、自由に移動しながら話し合い活動を行った（図6）。

最終的に円形のホワイトボードに話し合った内容を書くように指示をしたが、最初からホワイトボードを使って話し合う生徒もいた。ここでは、生徒同士の話し合いの中で、第1時～第3時の学習の中で、自分達が考えたことを振り返りながら話したり、円形のホワイトボードに記述する姿が見られた。

あるグループは、図7のように話し合いの流れをホワイトボードに記述していた。最初に、これまでの授業で学んだことを箇条書きでまとめた。そこから、関連させて考えた内容を書き、最後にユニットテーマに向けての考えをまとめることができていた。

生徒の話し合いの様子では、これまでの授業で学んだことを使って議論している姿と捉えることができた。また、教師の補助発問を行うことによって、学校教育目標の礼節につながる「感謝の気持ち」（S1の発言の下線部）を引き出すことが



図6 話し合い活動の様子

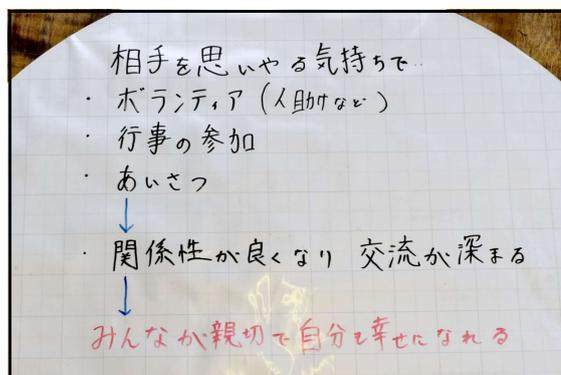


図7 ホワイトボードの記述

できた（図8）。この補助発問は、ユニットテーマを作成するとき、ユニットにおける指導の手立てを共通認識したことでできたと考える。

その後、各グループのホワイトボードの記述を共有できるよう、自由に移動して見合う活動を行った。メモを取りながら他の人の考えを見る生徒も多く、短い時間で交流させることができた。

終末では、1枚ポートフォリオに、「テーマについての自分の考え」とその理由を記述する活動を行った。

※Sは生徒、Tは教師

S 1：何か意見ありますか。

S 2：あいさつ。

S 1：あいさつ大事。

S 2：ゴミ拾いもいいんじゃない。

S 1：意識が大切だね。

S 3：想いを込めるのが大切だよ。

S 1：想いを込めたあいさつとゴミ拾いか。

S 2：道とかでおかえりっていう人いる。

S 3：なんて返していいかわからない。

S 1：ただいまって言えばいいよ。

T： あいさつはどんなふうにするの。（補助発問）

S 1：感謝の気持ちを込めて大きな声であいさつする。

※Kはホワイトボードに記入する。



図8 生徒の話合いの様子

(4) ユニットの振り返り

事後の教師による話合いにおいて、以下のような意見が挙がった。

- 生徒の1枚ポートフォリオの記述を基に学年全体で評価を行えた。例えば、図9では①で新しい根拠を入れた「強化」、②では、授業での支え合いという考えを取り入れた「追加」を見取ることができた。また、③では、授業で学んだことを実生活に活かそうという意欲が見られ自分の事として考える事ができていると見取ることができた。

| テーマ | しあわせを実感できるまちにするために | |
|---|---|---|
| ○テーマについて自分はどうしていきたいか。（授業前の考え） | | |
| <p><u>地域のひととより関わって、協力しながら地域活動などに参加していく。</u></p> <p><u>見て見ぬふりをせずに、助け合いを心がける。</u></p> | | |
| ①授業で学んだことを使ってテーマを解決する方法を考えよう | <p>自分の番にするお相手、周りを優先する。</p> <p>普段から感謝の気持ちを口にすることにする。</p> <p>おたがいに支え合うようにね。</p> <p style="text-align: center;">①</p> | <p>他の人の考えをメモしよう</p> <p>思いやる気持ちであいさつなど→関係性よめる</p> <p>他だとしてもやさしい気持ちを伝える</p> <p style="text-align: center;">②</p> <p>感謝の気持ち 一人ひとりに</p> |
| ②テーマについて自分はどうしていきたいか。 | <p><u>常に感謝と思いやる気持ちをもて、他人のふりをしたりしないようにする。あたり前のことかもしれないけど、ありがとうと思ふのがあれば、すぐに口にする。</u></p> <p style="text-align: center;">③</p> | |
| ③授業をする前と比べて自分の考えはどうなりましたか？当てはまるものを全てに○をつけよう。【は○きりした 変わった 広がった】 また、それらを選んだ理由を下に書こう。（授業で学んだこと、自分の経験、友達や家族、言葉、など） | | |
| 理由 | <p>授業前に、見て見ぬふりをしないと考え、授業後にはおたがいに支え合うという考えに広がっていったので、やはりみんなも支え合い、協力しながら過ごすと大切な事だと思いき、あたり前をあたり前としないで、それぞれで過ごすというかなと思います。地域の方も思いやる気持ちをもて、関われば、関係性がよくなるという考えをもった人がいたので、すごく良いと思いました。地域の方以外でもこのおな気持ちをもて、関わるといいです。</p> <p>家庭より</p> | |

図9 実践2の一枚ポートフォリオの様子からの見取り

このように分析を行うと、95%近く（69人中65人）の生徒が内容項目を関連的に捉え、考えを深めていた。ユニットは、一見すると異なる内容項目の授業を並べ替えただけのように見えるが、全体を貫くユニットテーマがあるため、関連的な学習にすることができている。評価についても、学年で共通して「強化」「変化」「追加」という視点をもつことで、学年の教師の多くの目で生徒の変容を見取り、協働的に評価をすることができた。

- このユニットでは、地域の人達への感謝の気持ちを考えることができたので、次の「自他を尊重する」では、相手を尊重すると共に自分も大事にしようとする心情を育てたい。
- ユニット全体を振り返ると、地域との関わりについてはよく考えることができ、総合的な学習の時間の地域学習に向けて気持ちを高めることができた。とてもよい成果だと思うので、来年度も総合的な学習の時間につながるよう指導できるとよい。

V 研究の結果と考察

1 「ユニットを導入した年間指導計画の作成」の記録より

ユニットの実践前では、「異なる内容項目をどのように関連させるのか分からない」、「1単位時間での授業では活動が増えてしまい、内容項目を考えさせる時間が減ってしまうのではないか」、「ユニットテーマに対してどのようなことを生徒に考えさせたらよいのか」などの意見が見られた。ユニットでの授業は、これまでの道徳科の授業とは大きく異なる部分があるため、先を見通せない不安感があったと考える。

2 「ユニットテーマについての話し合い」の記録より

学年主任を中心に「ユニットテーマについての話し合い」を行うことで、何を生徒に考えさせたいのかを具体的に話し合うことができ、ユニットで目指す生徒像についての話に自然と向かっていった。そして、目指す生徒像を基に、1枚ポートフォリオを使うことや、生徒の自由な話し合い活動などの授業の手立てについても具体的に話し合った。その結果、協働的に取り組むための共通認識をもつことができた。

このような指導の手立てや評価を含む教材研究は、これまでは学級担任が授業ごとに行っていたが、本研究では、学年の複数の教師で行えるようになるので、質的に向上させることができるようになったと考える。

3 「ユニットの実践」の記録より

授業では、それぞれの内容項目を、それぞれの教師の方法で指導することができた。一見バラバラの活動にも見えるが、1枚ポートフォリオの「先生から一言」の記述や授業中の補助発問にも見られるように、生徒がユニットテーマに向けて考えられるような協働的な取組にすることができていた。

これは、「ユニットテーマについての話し合い」を行うことで、具体的な指導の手立て、評価についての共通認識をもつことができたためであると考えられる。ユニットで目指す生徒像を中心に逆向きに授業構想しているので、授業ではそれぞれの教師の方法で指導することができたと考える。

その結果、ユニットでの1単位時間の授業においては、生徒が教材を通して内容項目を考え議論することによって、ユニットテーマについて異なる側面から追求することができた。そして、そのような1単位時間の授業を複数時間関連付けることによって、ユニットテーマから関連する道徳的価値に広がりをもたせることができるようになった。

4 「ユニットの振り返り」における教師からの聞き取りより（枠内は聞き取りの結果）

(1) 管理職・道徳教育推進教師

- ・道徳について、各学年でよく話し合いをしている様子が見られるようになった。
- ・年間の見通しをもってユニットを配列しているので、道徳科の基本方針をすべての教師が共

通認識できている。

- ・ユニットを取り入れた道徳科の指導は、学校の経営方針に必ず関わってくるので、学校全体の取り組みに関連させることができている。

これは、ユニットを導入したことにより、ユニットテーマに向けて具体的に指導の手立て、評価を確認し合う協働的な取組ができたと考ええる。また、学校教育目標や別業がこれまで以上に活かされるようになり、道徳科の基本方針が明確なことで、学校の目指す生徒像に向けた指導にすることができたと考ええる。

(2) 学年主任（3名）

- ・異なる内容項目を関連的に考えられるユニットの指導は、単発の道徳科の授業より他教科との関連をもたせやすい。
- ・ユニットが道徳教育全体計画とつながっているため、各学年での指導が学校の目指す生徒像の実現に向けたものに行うことができている。

これは、ユニットを導入した年間指導計画を作成したことで、他教科との関連を考慮した道徳科の基本方針を、学年の教師が共通認識して指導できたためであると考ええる。また、「ユニットテーマについての話し合い」を設定したことが、道徳科の基本方針を基にした、ユニットで目指す生徒像を具体化することにつながったと考ええる。

(3) 学年の教師（12名）

- ・別々の内容項目を関連付けるのは最初は難しいと思ったが、ユニットテーマを基に指導を行うことができているので、学年の教師が同じ方向に向けて指導することができていた。長期間に渡って学年全体で指導することができるので、その時だけで終わってしまう単発の授業よりも効果的に指導でき、生徒の考えの変容も見取りやすくなっていたので、評価もしやすくなっている。
- ・ユニットを行うことで、学年の教師間で道徳科について話す機会が増えた。ユニットテーマについて話し合っているときに、目指す生徒像について共通認識をもつことができているので、授業の指導内容や、生徒の様子の情報交換、関連する行事へのつながりなどを話しながら、学年のみんなで授業に取り組んでいる実感があった。この方法であれば、誰が授業をしてもユニットテーマに関連させて指導できると思う。特に、最後のユニットテーマについて考える授業では、生徒が自由に話し合う活動があったが、いろいろな意見が出る中に教師も参加して、ユニットテーマに迫れるような補助発問をすることができていた。
- ・同じ系統のユニット（実践4、5）でも、学年の実態に応じて発展的に指導することができている。

これは、「ユニットテーマについての話し合い」をしたことで、具体的な指導の手立て、評価を共通認識することができ、ユニットで目指す生徒像に向けて一貫した指導をすることができたと考ええる。ユニットで目指す生徒像を具体化し、目指す生徒像から遡って授業構想したことが、それぞれの指導に活かされていたと言える。その結果、授業でそれぞれの教師がそれぞれの方法で指導を行っても、共通認識しているユニットで目指す生徒像に向けた取組にすることができたと考ええる。

全体を振り返って見てみると、実践では関連的な指導を協働的な取組で行うことができ、年間を通じて発展的に指導することができた。これは、ユニットを導入した年間指導計画が、異なる内容項目の組合せや、他教科との関連などを考慮したことで、道徳の基本方針を具体的にすることができ、「ユニットテーマについての話し合い」が目指す生徒像に向けて行うことができたためと考ええる。また、年間を通じてユニットを実践したことで、「ユニットテーマについての話し合い」を効率的に行うことができ、ユニットで目指す生徒像についてもより具体的に話し合うことができた。これは、ユニットの指導を、年間指導計画を基にPDCAサイクルで行ったことで、教師の意識が洗練されていたと考ええる。

VI 研究のまとめ

1 成果

ユニットを導入した年間指導計画を作成したことで、道徳科の基本方針が明確になり、学校の全ての教師が目指す生徒像を基にした共通認識をもつことができるようになった。

また、ユニットテーマについて学年の教師が話し合うことで、道徳科の基本方針を基にした具体的なユニットで目指す生徒像を共通認識することができ、目指す生徒像を目標とした指導の手立て、評価を考えることができた。その結果、授業では、共通認識を基に学年全体で指導や評価を行えるようになり、協働的に道徳科に取り組むことができた。

以上のことにより、ユニットを導入した年間指導計画の作成を通じたカリキュラム・マネジメントは、教師が協働的に道徳科に取り組むことに対して有効であると言える。

2 課題

道徳科についての話し合いの時間を特別に設定するのは難しい。業務改善が求められる学校現場では、新たに学年の教師が集まる時間を設定することは困難である。

しかしながら、実践でも、三つのユニットを行った第1学年では、3回目の実践の時には話し合いの時間をかなり短縮することができたことから、普段行われている学年会の中で十分話し合うことができると考える。

また、ユニットの授業を行う中で、主体的に考え議論する授業や多面的・多角的に考える授業に向けた授業改善を行える実感があったが、今後は、授業改善に対する検証を進められるとよい。

VII 提言

ユニットを導入した年間指導計画の作成を通じたカリキュラム・マネジメントは、教師が協働的に道徳科に取り組むことに対して有効である。本研究で行ったカリキュラム・マネジメントを活用することで、これまでの学校で行われていた学級担任任せの道徳科から、全ての教師が協働的に取り組む道徳科に改善し、授業での学びを活かすことができる生徒を育成するために、関連的・発展的な学習ができる授業を行っていけるであろう。

<参考文献>

- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 (2018)
- ・中央教育審議会 『道徳に係る教育課程の改善等について(答申)』 (2014)
- ・中央教育審議会教育課程部会考える道徳への転換に向けたワーキンググループ 『考える道徳への転換に向けたワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 (2016)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プランⅡ』 (2019)
- ・群馬県教育委員会 『はじめよう!道徳科』 (2018)
- ・群馬県教育委員会 『ふかめよう!道徳科』 (2019)
- ・平林 香里、森 有希 著 『道徳授業における言語活動の現状に関する調査』 (2020)
- ・田沼 茂紀 著 『「特別の教科 道徳」授業評価の進め方』 よしみ工産 (2017)
- ・田沼 茂紀 著 『道徳科授業スタンダード』 東洋館出版社 (2019)
- ・西岡 加名恵 著 『逆向き設計』論に基づくパフォーマンス評価の進め方 全国大学国語教育学会発表要旨集 (2015)
- ・愛知県総合教育センター研究紀要第108集 『道徳教育の推進の在り方に関する研究』 (2018)

<担当指導主事>

豊岡 大画 永井 直樹